

文献資料による九州地方のコミュニケーション 実態の日本語史的研究

国際文化学部
日本文化学科
教授

辛島 美絵



研究シーズの紹介

本研究は、日本語史研究の立場から、中世以前の九州地方におけるコミュニケーションの実態を調査・検討するものです。

中世以前の日本語資料は都（京都）の貴族の文章語ばかりで、地方在住の人々が実際の生活の中でどのような言葉を用い、どのようにコミュニケーションを行っていたのかは、ほとんど分かっていません。

そこで、中世の九州在住の人が残した仮名文書（仮名が使用されている古文書）に着目し、そこから当時の庶民のコミュニケーションの実態を探ることを目指しました。

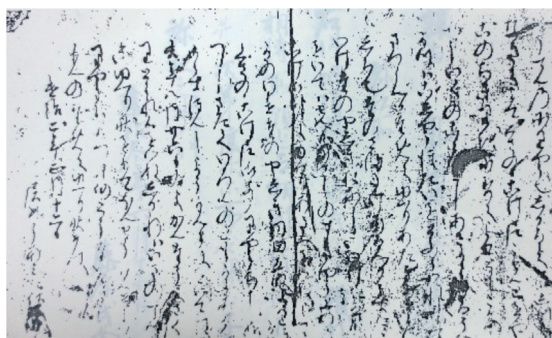
どのような概念を、どのように言語化するかは、その社会の文化によって異なります。本研究は、中世の九州の人々の対話のあり方を実証的に解明し、現代の九州の文化研究に繋ぐための基礎的研究です。

日本文化の基礎的研究



言語・歴史・資料・地域研究
やコミュニケーションスキル
向上に応用可能

- (1) 日本語の歴史的研究が可能になります。
- (2) 言語面からの九州の文化形成にアプローチできます。
- (3) 日本語史資料の開発に貢献できます。
- (4) 他の地域の言語の歴史的研究にも応用可能です。
- (5) コミュニケーションスキル開発に貢献できます。



13世紀の女性が平仮名で書いた遺言状
(建治2年1月12日 尼めうあみた仏讓状『宗像大社文書』
吉川弘文館より)

漢文の古文書に倣って型どおりの文章が記されていますが、文を細かく分析すると、挿入句が多く、同じ接続表現が繰り返されるなど、現代の話し言葉のような特色が見えてきます。

九州には中世の仮名文書が比較的多く残っています。これを一通一通分析して、当時の九州の話し言葉の特色を探ります。

期待される活用シーン

- 言葉でうまく伝えたいのに、コツが分からない人はいませんか？



「話し言葉」と「書き言葉」それぞれの歴史と表現の特色を知り、実生活に活用することができます



- 九州の文化と歴史を知りたい！



言葉と文化の歴史を知ることによって、現在の諸問題に多角的な思考で対処できるようになります

